

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成19年3月12日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査) 北原 糸子	神奈川県特任教授
赤羽 貞幸	信州大学教育学部学部長
伊藤 和明	NPO法人防災情報機構会長
井上 公夫	財団法人砂防フロンティア整備推進機構参与・技師長
鬼頭 康之	長野市総務部庶務課公文書館準備担当専門主事
原田 和彦	長野市総務部松代支所松代文化施設等管理事務所学芸員
降幡 浩樹	長野市立博物館主査
松浦 律子	財団法人地震予知総合研究振興会部長代理

の各委員及び

長瀬 哲	長野日本大学高校・中学校校長
小山 丈夫	飯綱町教育委員会いづな歴史ふれあい館学芸員
東 徹	弘前大学教育学部教授
西沢 安彦	長野市総務部庶務課公文書館準備担当専門主事
岡澤 由往	更北郷土を知る会会長
池谷 浩	財団法人砂防・地すべり技術センター理事長

が行い、担当は以下のとおりである。

巻頭言（伊藤和明）

第1章 災害の概要

第1節 弘化善光寺地震の地震学的特徴（松浦律子）

第2節 災害の状況（赤羽貞幸、井上公夫）

コラム 善光寺の釣鐘（鬼頭康之）

第3節 土砂災害（赤羽貞幸、井上公夫）

第4節 天然ダムの形成と決壊洪水（井上公夫）

コラム 渡辺敏と善光寺地震（西沢安彦）

第2章 被害と救済、そして復興へ

第1節 善光寺領（鬼頭康之）

第2節 幕府領と諸私領の震災（鬼頭康之）

コラム 『松代封内測量図』の成り立ちと特徴（降幡浩樹）

第3節 松代藩（原田和彦）

コラム 松代藩で作成された地震絵図類について（原田和彦）

コラム 佐久間象山と地震（東徹）

コラム 逆さ麦・大岩からのメッセージ（岡澤由往）

コラム 芋川流域の天然ダムと善光寺地震（池谷浩）

第4節 松本藩（降幡浩樹）

第5節 上田藩の被害と救済（北原糸子）

コラム 善光寺地震における飯山藩の被害（長瀬哲）

第3章 災害情報

第1節 はじめに（降幡浩樹）

第2節 文字・うわさによる災害情報（降幡浩樹）

第3節 摺物による災害情報（降幡浩樹）

第4節 善光寺界限を詳述した新出の読売（降幡浩樹）

第5節 原昌言の災害絵図（降幡浩樹）

第6節 様々な災害情報（降幡浩樹）

第7節 災害を伝承する人々—絵馬・石造物—（降幡浩樹）

第8節 まとめ —情報の心性—（降幡浩樹）

コラム 牟礼宿周辺の被害と富くじによる復興（小山丈夫）

第4章 まとめ（全委員、執筆協力者、事務局）

第1節 はじめに

第2節 類似災害との比較検証

第3節 善光寺地震にみる災害教訓

第4節 むすび

北原委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

（事務局）	荒木潤一郎	内閣府災害予防担当
	山腰 裕一	内閣府災害予防担当
	藤田 亮	内閣府災害予防担当
	松田 淳吾	内閣府地震・火山対策担当（平成18年3月まで）
	三上 晴由貴	内閣府災害応急対策担当

平成19年3月

内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、財団法人日本システム開発研究所に委託し、実施した。